



浪江東中学校

双葉郡浪江町大字幾世橋字来福寺西 73



教育、文化、スポーツ各面で 県下に誇れる学校

浪江東中学校は、旧幾世橋中、旧請戸中の2つの中学校が統合され、1974（昭和49）年に開校しました。1976（昭和51）年には新校舎への移転が完了し、1999（平成11）年の校名変更を経て、震災までの40年近くの歴史の中で幾多の先生に教えを受け、地域の人々に見守られる中で生まれ、多くの卒業生が巣立っていきました。その歴史は栄光の歴史でもありました。教育、文化、スポーツ面の活動、いずれも素晴らしい成果を残してきました。文化面では音楽コンクール等の全国出場など、スポーツは県、東北大会の優勝など、各部の生徒のめざましい活躍がありました。浪江東中学校は、勉学も部活全般においても県下に誇れる校風が確立されていました。

校歌

作詞/長浜 久雄 作曲/天野 秀延

1. 来福寺野の さわやかに
若人われら 今日にあり
礼知ゆたかに 誇りあり
生をまさしく 拓きつつ
花と匂わん 東中
2. 阿武隈の嶺の 晴やかに
若人われら 明日にあり
信義さわやかに 美わしさ
日々をまさしく 育てつつ
空と映えなん 東中
3. 太平洋の かがやかに
若人われら 共にあり
愛のかたみに さきくある
世々をまさしく 起しつつ
虹と薫らん 東中

沿革

昭和49年 4月	浪江町立東中学校設立、幾世橋中学校、請戸中学校を廃し、幾世橋分室、請戸分室とする	平成11年10月	「平成9～11年度文部省中学校進路指導総合改善事業実施校」の研究発表会実施
50年 3月	校章・校旗・校歌制定	11年11月	創立25周年・新校名制定記念式典開催
50年 6月	第一期校舎建築	12年	東北中体連大会ソフトボール部第3位
51年 3月	第二期校舎建築	13年	マーチング・フェスティバル全国大会銀賞 第29回マーチング・バトントワリング全国大会銀賞
51年 4月	実質統合、新校舎移転完了	14年	マーチング・フェスティバル全国大会銅賞 第30回マーチング・バトントワリング全国大会銅賞
52年 2月	体育館完成	15年	マーチング・フェスティバル全国大会銀賞 第13回男子インドアソフトテニス福島県大会優勝
52年 3月	第1回・第2回卒業生による記念として正門門柱建立	16年	第47回男子ソフトテニス福島県大会優勝(個人全国大会出場) 第32回マーチング・バトントワリング全国大会出場 第24回全国中学生人権作文法務省人権擁護局長賞
52年 4月	PTA奉仕による樹木移転完了 プール・テニスコート・運動場完成	17年	第18回全日本マーチングコンテスト東北大会パレードコンテスト金賞
53年	芝生完成、フェンス完成(校庭南・東側)、校舎完成感謝の会開催	18年	耐震補強およびユニバーサルデザイン工事の大規模改修工事 第19回全日本マーチングコンテストパレードコンテスト銅賞
55年	勤労体験学習研究会指定校(～56年度)	19年	中体連ソフトテニス福島県大会準優勝(東北大会出場) 中体連ソフトボール女子新人戦福島県大会優勝 第20回全日本マーチングコンテスト東北大会銅賞
56年11月	勤労体験学習研究会発表会	20年	東北中学生女子選抜ソフトボール大会出場 第21回全日本マーチングコンテスト東北大会金賞
58年11月	東北地区中学校技術家庭科研究大会(木工、保育分科会会場)	21年	バリアフリー工事 中体連ソフトボール女子新人戦福島県大会準優勝
61年	青少年健全育成推進指定校(～62年度)	22年 9月	第28回福島県マーチング・フェスティバル金賞(東北大会出場)
62年	県学校環境緑化コンクール参加(理事長賞受賞)	22年10月	全日本マーチングコンテスト第23回東北大会金賞 体育館耐震工事了
63年	創立15周年記念式典挙行	23年 3月	東日本大震災および原発事故のため臨時休業
平成元年 8月	台風13号による被害	31年 3月	休校
5年	中体連ソフトボール部全国大会出場 創立20周年記念式典挙行	令和 3年 3月	閉校
8年 4月	「浪江町立学校就学指定に関する規則」の改正により、大字権現堂(4区、8区および佐屋前行政区除く)、大字牛渡、大字高瀬、大字西台、大字藤橋(字出口を除く)の学区を加えて変更(ただし、平成8年度入学から適用)		
9年	平成9～11年度文部省中学校進路指導総合改善事業実施校指定		
10年	平成10・11年度財団法人日本進路指導協会研究委託校指定		
11年 4月	「浪江町立小学校及び中学校条例」の改正により、校名を「浪江町立浪江東中学校」と改称 校歌を吹奏楽曲に編曲(編曲者：東京芸大教授成田欽家氏)		

「ふるさと追想」

浪江のころ通信

平成28年広報なみえ
10月号より抜粋



浪江の友達も浪江町も、ずっと大切にしたい

山田 拓樹さん(大学生)

震災当日は中学校の卒業式でした。避難先は転々と変わり、大学入学を機に一人暮らしを始めました。公務員を目指し、浪江町役場をインターン先に選びました。浪江でのいちばんの思い出は、中学時代の3年間ですね。学校生活や友だちとの思い出がたくさんあります。十日市祭はとても楽しみでした。高校入学までの友達とのやりとりの中で、東中の卒業生が多数、福島西高校に入學すると聞いて、自分も入学しました。中学の時やっていたテニス部に入り、新しい友だちもできました。今は浪江の友だちとはなかなか会えないのですが、これからも大切にしていきたいです。離れて住んでいても浪江町は故郷です。その思いは変わりません。

震災前の学校の風景



卒業メッセージ



東風祭



生徒会活動



マーチング



校舎正門 (2006年)



合唱コンクール

震災直後の記録とその後

2011(平成23)年3月11日、地震による津波と原発事故は甚大な被害をもたらしました。海岸一帯を襲った津波は学校の200m～300m手前まで達しました。学校までおよぶことはありませんでしたが、多くの住民と午前中に卒業式を終え帰宅していた生徒2人が犠牲となりました。翌日、原発事故により全町避難指示が出されたため、生徒の安否確認は3月31日までかかりました。そして4月1日には二本松市(旧木幡二小)に、臨時休業

措置がとられた本校の全職員が集まり、浪江東中に通うはずだった生徒183人の就学先や避難先の住所確認を行いました。

2019(平成31)年3月をもって浪江東中は休校となりましたが、通っていた生徒たちは伝統を確かに引き継ぎ、発展させ、志をつないできました。これらの伝統・実績とともにその志はここ来福寺の地で、未来の浪江を想う学校へと託されていきます。



卒業式(2011年)



卒業式(2011年)



教室



卒業式の祝電

浪江町立小・中学校合同休校式

2019(平成31)年4月8日

浪江町立小・中学校合同休校式が、なみえ創成小・中学校体育館において行われました。休校となったのは、幾世橋小学校、請戸小学校、大堀小学校、苅野小学校の小学校4校と、浪江中学校、浪江東中学校、津島中学校の中学校3校です。出席した関係者は各校での思い出を語るとともに、歴史や伝統を次世代に引き継いでいく誓いを新たにしていました。町教育委員会では、休校となった小・中学校の歴史やデータなどをホームページを利用して順次公開していく予定です。





津島中学校

双葉郡浪江町大字下津島字萱深 1



校訓「拓魂」のもと 未来を切り拓く校風

津島中学校の校章は、1924（大正13）年に制定された津島村紋章「五山ちがい鷹の羽」から五ツ山字形を中心に配し、さらに五山（白馬石山、高太石山、葛船山、中ノ森山、日山）を図案化して制定したもので「飛躍・発展」の願いが込められています。校舎からこの五山を望む風景は思わず息をのむほどの絶景です。校訓は「拓魂」という言葉です。「未来を切り拓く」という意味で、学校創設以来連綿と引き継がれてきました。この精神に基づいて教育目標は「生きる力を求めて学ぶ」と決めました。生徒一人ひとりの成長とたくましい自立に視点をおき、社会に通用し貢献する人間の育成を図ってきました。

校歌

作詞/長浜 久雄 作曲/天野 秀延

1. 雲光る わが学びやは
文化の泉 希望にもゆる
友愛に 歌声おこり
今日の歩み 力に満ちて
ああ母校 津島中学校
2. 日の匂う わが学びやは
平和の泉 祈りはつきず
友愛に 歌声おこり
美し調べ このやにあふる
ああ母校 津島中学校
3. 天近き わが学びやは
不断の泉 理想はたかし
友愛に 歌声おこり
明日築く 一粒われら
ああ母校 津島中学校

沿革

昭和22年 5月	津島村立津島中学校創立	平成14年10月	へき地・小規模校研究大会双葉大会開催
26年 2月	津島村大字下津島字萱深1の新校舎に移転	18年 1月	国土地理院地図記号デザインコンクール優秀賞
31年 5月	浪江町に合併、浪江町立津島中学校となる	18年11月	NHK杯中学校放送コンテスト県大会ラジオ番組部門大賞（全国大会出場）
38年 3月	体育館完成	19年11月	NHK杯中学校放送コンテストアナウンス・朗読・ラジオ番組部門大賞（全国大会出場）
38年11月	へき地学校優良賞として表彰	20年 7月	県中体連陸上競技大会男子走幅跳優勝（東北大会出場）
49年 8月	プール建設工事	21年 2月	地球温暖化防止「福島議定書」取組実践 県地球温暖化防止活動推進センター長賞 「十七字のふれあい」学校賞
57年10月	学校保健統計調査文部大臣表彰	21年11月	中学生の税について作文コンクール学校賞
63年 2月	新校舎落成・移転	22年 2月	地球温暖化防止「福島議定書」取組実践 福島県知事賞
平成元年 1月	新体育館完成	23年 3月	東日本大震災および原発事故のため臨時休業
4年 1月	コンピュータ室完成	31年 3月	休校
5年12月	県小中学校音楽祭第3部創作学校賞	令和 3年 3月	閉校
9年10月	創立50周年記念式典		
10年12月	校庭改修完了		
13年 3月	県スクール・ホームページ・コンクール大賞		
13年 9月	県下小中学校音楽祭合唱銀賞		



現在の校舎

「ふるさと追想」

浪江のこころ通信

平成30年広報なみえ
10月号より抜粋



津島の伝統芸能を継承し、浪江とつながりたい

今野 満里実さん（中島村役場勤務）

震災時は中学3年生でした。避難を余儀なくされ、5月から二本松市内の高校に通いました。避難後は無気力になってしまった時期がありましたが、ある日津島を訪れたら「卒業おめでとう」というお祝いの掲示が残っていて、それを見た時、自分も地域のために何かできないかな、と強く思いました。そして短大と専門学校を卒業後、西白河郡中島村に勤務しました。

いまは地域の伝統芸能「津島の田植踊り」の保存・継承に取り組んでいます。今年、二本松市で発表会があり、私も踊らせてもらいました。会場には、震災後会えなかった浪江の方々がたくさん見に来てくださいました。これからも浪江の方々につながっていきたいです。

震災前の学校の風景



卒業メッセージ



津楓祭

—— 震災前のまま残された校内の様子 ——



旧校舎



震災直後の記録とその後

2011(平成23)年3月11日、午前中に卒業式が行われ、感動さめやらぬ午後2時46分に激しい揺れが校舎を襲いました。翌朝から、原発事故により20km圏内からの避難者約1,300人を受け入れました。25日には町全体が避難区域となり、津島中学校の学区もすべてが帰還困難区域となりました。そうした中、7月22日には二本松市において2011(平成23)年度の終業式が行われました。

津島のつながりを大切にしたいと願う津島小・中学校PTAが合同で、震災の翌年から「津島のつどい」を開催し、2017(平成29)年まで継続されました。生徒も保護者も職員も再会を喜び合う貴重な場となりました。

本校舎は、震災後に清掃整理が行われ、明るくきれいな状況が維持されていました。生徒昇降口の正面には「津島中3つの誇り」と題した掲示がありました。3つの誇りとは「明るいあいさつ」「元気な校歌」「全力清掃」です。震災前に全校生と教職員が心一つにして取り組んだ、大切な目標でした。津島で育った生徒たちには、この3つの誇りが心に息づいていることを信じてやみません。



津島中だより「禪」



中高交流会 (2014年)



津島のつどい (2017年)



津島のつどい (2017年)



津島のつどい (2017年)